

# 令和2年度学校評価書

岡山県立津山東高等学校  
校長 園田 哲郎

## 1 自己評価

### I 評価結果

(別紙参照)

### II 分析・改善方策

- ・学校自己評価アンケートからは、保護者に対する全質問項目のうち「子どもを津山東高校に入学させてよかったと感じている」の項目に対する肯定的評価の回答率が最も高い(89.6%)ことなど、本校教育に対する生徒や保護者の満足度が高いことが伺えた。多くの項目において「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が高く全体的に良好である。
- ・生徒に対する質問事項のうち「授業や部活動・学校行事などで、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」や「地域の方や専門家など、校外の人材を活用して学ぶ機会がある」の項目に対する肯定的評価の回答率が高いことから、本校教育の特徴である協働的な学習や多くの外部講師をお招きしての専門性の高い学び、「行学」での地域をフィールドにした探究学習、発表会などに対する生徒の満足度が高いことが伺えた。
- ・国際交流・グローバル教育に関する項目について生徒、保護者とも評価がやや下降した。これは今年度、新型コロナウイルス感染症の影響で姉妹校との国際交流が延期になったことが影響しているものと考えられる。年度末に実施したオンラインによる交流を次年度さらに進化させて実施するなど、国際感覚を養う教育を充実させたい。
- ・「学校のホームページでは最近の活動の様子や、知りたい情報が発信されている」の項目について、生徒、保護者とも評価がやや低い。「わからない」とする回答が多くあまり閲覧されていないことが伺える。次年度はホームページをスマートフォン対応にリニューアルするなど、効果的に情報発信できるホームページに改善したい。

## 2 学校関係者評価委員名

宮本 亨 (津山市医師会会長) 宮地 啓介 (美作大学生生活科学部教授)  
門長 儀紘 (㈱ラビット代表取締役) 三村 文恵 (林田宮川町内会)  
右近 隆聡 (本校PTA会長)

## 3 学校関係者評価

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止との両立という制約の中で、東高は生徒も先生方も工夫しながら望ましい活動を行っている。オンラインの導入に積極的に取り組んでいる点など、学校経営を高く評価している。
- ・津山東高校は、地域の中学生在が行きたい高校、保護者が行かせたい学校として名前があがることが多く、志願者数が多いこともうなずける。行学で地域のイベントに参加した生徒に対して、地域の方から「この子たちは何も言わなくても自分から動いてくれる」と感心していた。
- ・部活動の参加者が減少傾向にあることについて、学業との両立を図りながら活発な部活動を維持してほしい。特に専門科はクラス替えがない中で、部活動は生徒間のつながりができる絶好の機会だと思うので、勧誘活動を工夫するなどして入部者を増やしていただいたい。

#### 4 来年度の重点取組（「令和3年度学校経営計画書」より）

- 1 志望進路実現のための、主体的・対話的で深い学びによる資質・能力の育成
  - (1) 資質・能力の向上を目的としたICT活用の研究と実践
  - (2) 新学習指導要領をふまえた教育活動の整備（カリキュラムマネジメント）
  - (3) 学習評価、模試結果分析等の根拠に基づいた教科指導による確かな学力の育成
  - (4) 各教科、特別活動、「行学」等による地域活動を重視したキャリア教育の充実
  
- 2 健やかな心身の育成と人間力の向上
  - (1) 自ら進んで気持ちの良い挨拶ができる生徒の育成
  - (2) 人権課題を明確にした人権教育の推進（人権学習充実拠点校）
  - (3) 特別活動、部活動、ボランティア活動への生徒の主体的な取組の推進
  - (4) 生徒のやる気や能力を引き出す教員のコーチングスキルの養成
  
- 3 安全安心で快適な学校生活のための施策の推進
  - (1) 「学校の新しい生活様式」等に基づいた衛生管理による感染症予防の徹底
  - (2) 教育相談体制の充実によるいじめや悩み等の早期発見と解消
  - (3) 「ふるさと岡山“学び舎”環境整備事業」の活用等による設備備品の充実
  - (4) 通学マナーの向上など安全意識やモラルの育成
  
- 4 学校の魅力化と情報発信（開かれた学校づくり）
  - (1) 自治体や大学、企業等と連携した教育活動の推進、及び四校連携講座の充実
  - (2) 姉妹校との国際交流、短期留学等を通じた国際性豊かな学校づくり
  - (3) ホームページの改善等による発信力の強化
  - (4) オープンスクール改革等による中学生等への生徒募集活動の充実